

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八 (動力車会館)  
(鉄電)二九三五(六・公衆)〇四七二(22)七二〇七

5月12日、第10回支部代表者会議開催

動労千葉は、五月十二日、第十回支部代表者会議を開催し、営業(駅)、売店への強制配転攻撃に対する反撃と、共同購入、夏季物品販売、カナメ商事など事業の拡大をはかることを確認し、当面5・17三里塚へ総力決起することを意志統一した。

中江勝利をひっさげ反撃に転じよう

統一地方選挙は、船橋・中江、成田・北原の高位当選をかちとり圧倒的に勝利した。

中江選挙闘争は、国鉄が四月一日に「分割・民営化」に移行するという中で、動労千葉の代表として地元の津田沼支部を中心に組織の総力で取り組み、四年前を上まわる大勝利をかちとることに成功した。

一方、成田・北原選挙においても、三里塚二期本格着工が目前という中で、成田支部を中心に労働連帯の絆を固めて闘いぬぎ、これも大勝利をかちとった。

そしてわれわれは、ふたつの選挙の勝利をひっさげて本来の闘いに勇躍突入する。

資本主義体制の危機に見合った運動を

四月一日からの「分割・民営化」で、形式的ではあれ就業規則や基本労働協約の締結をめぐる諸問題や、一方では東日本を中心に会社当局と東鉄労松崎が一体となり、動労千葉や国労を敵視する労務政策を推し進めてくる中で動労千葉はいかに闘うのか。

われわれが見極めなければならないことは、今ある資本主義体制が末期的症状を体している中で、労働運動はどうするのが問われているという点だ。

動労千葉も、体制危機の時代における敵の攻撃に対し、腹を据えて新たな労働運動をすすめていかなければならない。

これができるのは、二度のストライキを貫徹した路線と質、団結力・組織力を持った動労千葉だけだ。

動労千葉としても、全体の攻防を決める位置にある国鉄労働運動の中で、時代要請に見合った運動を展開していく。

配転攻撃粉碎し、鉄道労連解体へ

いよいよ五月に入って動労千葉は、三月の定期

委員会で決定した二八名の解雇の撤回、清算事業団に送られた十二名の職場復帰、さらには差別・選別、不当労働行為を許さない闘いを軸としながら、もう一方では事業部の運動を強化していくこととする。

夏季物品販売については、十三日から全国的にオルグを開始する。さらに、共同購入会も会員の拡大と体制の強化をすすめていく。カナメ商事の拡大については、今までの事業プラスさまざまな企画を行うこととし、その第一弾として五月三十日、三十一日の両日、労働者福祉センターにおいて紳士服の販売を中心としたイベントを行うこととした。

また、運転から営業(駅)、売店への不当な配転攻撃に直面しているが、今後の取り組みとしてひとつは、動労千葉が運転以外の職場で組織と団結力を創り上げていく、もうひとつは、営業へ行って組合を脱退した人達を再度動労千葉に結集させていく取り組みを展開していく。

ポイントとは、動労千葉が運転職場から出たことで鉄道労連などの組織が崩れていくことを敵に見せつけてやるのが敵の攻撃を打ち破る唯一の方法だということだ。

七月には動労が解散大会を行うが、このチャンスに水戸、高崎の強化拡大をかちとる。国労も昨年十月の臨大以降、闘いていないという中で七月に大会を開催する。

われわれは、この状況をにらみつつ、六月二十日に「動労千葉とたたかう国鉄労働者をはげまし連帯する6・20集会」を行うこととした。

当面、5・17三里塚へ総力で決起して反撃に転じよう。

当面するスケジュール
4/17(日) 三里塚現地集会
旧成田連転区 10時集合
狭山差別裁判糾弾中央集会
日比谷野音 10時?
81・3公判
千葉地裁 14時
27(水) 22(金)